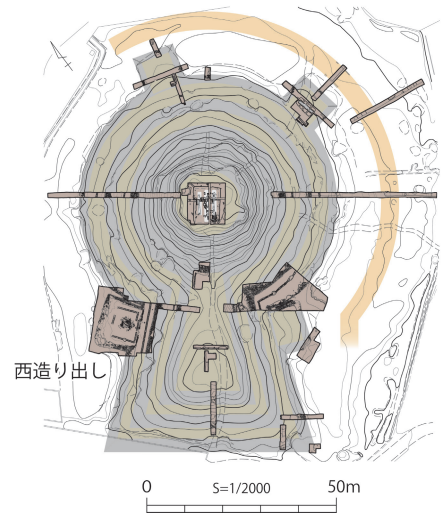


食物形土製品（魚形・鳥形土製品）

○魚形・鳥形土製品の出土状況

魚形・鳥形土製品は、高杯などの土師器や笊形土器、ほかの食物形土製品などとともに、行者塚古墳の「西造り出し」からまとまって出土しました。また、同じ西造り出しでは多数の家形埴輪も出土しています。

このような出土状況から、これらの食物形土製品や土師器は食物供献を表現したものと考えられています。



墳丘と西造り出しの位置

○魚形・鳥形土製品の概要

行者塚古墳では2点の魚形土製品と1点の鳥形土製品が出土しています。

魚形土製品は、尾鰭の形などに若干の違いがありますが、長さはいずれも7.8cmで、ほぼ同形同大です。表面と裏面、そして背面と腹面には沈線が施されており、例えば魚の側線など、何らかを表現しているものとみられます。

鳥形土製品は、くちばしの一部がわずかに欠けていますが、丸みを帯びた胴部から細長い頸が伸び、その先に小さな頭部を付けています。高さは3.0cmと小型です。しかし、目や羽などは表現されておらず、全体的に簡略化された造形をしています。

これらのものはいずれもかなりデフォルメ（変形）されているため、モチーフとなった魚や鳥までははっきりとわかりません。これらの土製品を作った古墳時代の人々は、一体どのような魚や鳥をモチーフにしたのか、興味を惹かれます。

ここに注目！

魚形土製品と鳥形土製品は、いずれも指先で粘土をこねて作る「手づくね」で作られています。魚形土製品は全体的に丁寧なナデで仕上げられており、ほとんど見ることはできませんが、鳥形土製品の表面には指紋や粘土の継ぎ目が残っている箇所があります。



魚形土製品の表面と背面に施された沈線



鳥形土製品にみられる粘土の接合痕